

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100204		
法人名	特定非営利活動法人ひまわり		
事業所名	グループホーム後楽庵	ユニット名	もみのき
所在地	宮城県遠田郡涌谷町字刈萱町14番地		
自己評価作成日	平成23年8月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

築80年以上の民家を改修し利用しているため、高齢者にとっては馴染み深く、落ち着ける空間になっています。定員6名と少人数のため一人一人に手厚い支援・援助を行うことができ、家族的・家庭的な雰囲気も感じられると思います。閑静な場所に立地しており、鳥の声や、庭の花木などで季節を感じる事ができ、認知症の方にとって良い刺激となっています。また、小学校や保育園、教会が周囲にあるため、日々子供たちの声等が聞こえたり、交流することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 広い敷地内の旧家屋敷を増改築し、10年前に開設した6名の「もみのき」とその運営経験を活かして本年4月開設した9名の「ゆずりは」の2ユニットのホームである。同法人の居宅介護支援事業所が敷地内にあることやボランティア活動から法人を設立した経緯もあり、地域との交流が深く来訪者も多い。今回震災時には飲料水等の差し入れ、建物の応急復旧などの支援を受けており、今後、避難などの災害対策面での地域協力への積極的な働きかけをお願いします。
2. ホーム理念の「私達が年を取った時、暮らしたい場所を自分達の手で作ろう」を実践すべく、若い職員が課題を持って、日々のケアに取り組んでおり、管理者がサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム後楽庵 「もみのき」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく場所に掲示し、常に再確認できる様にしている。	ホーム開設時作り上げた理念が日誌を開くと見えるようにして、日々共有、確認し、その実践に努めている。4月の2ユニット目開設を機に、地域とのつながりも深めるような理念の見直しを検討中と話しており、期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、研修の受け入れなどを行っている。	近隣小学校の運動会応援、保育園児との交流、町敬老会参加、文化祭見学など日常的に交流している。今回震災では、燃料、飲料水、野菜などの差し入れ、大工さんの建物応急復旧などの支援を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	涌谷町の取り組みの一環として協力をし、貢献している。(認知症サポーター・認知症の人と家族への支援についての検討会議等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催出来ていない。	地区長2名、民生委員、家族代表、町職員、地域包括支援センター職員をメンバーとし、「目標達成計画」にも掲げていたが、昨年度は開催しておらず、改善をお願いしたい。	その人らしく地域で暮らし続けるには、地域の理解、支援が必要です。メンバーからの意見などをサービス向上に活かしていくためにも、県の指導もあり、定期開催への取り組みをしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	合同学習会や、情報交換会に参加している。また、地域包括支援センターとは、気兼ねなく相談できる関係を築けている。	年2回開催される町健康福祉課主催合同学習会や地域包括支援センター主催グループホーム研修会にほぼ職員全員が参加し、スキルアップに取り組んでいる。地域包括支援センターとは入居相談、随時の助言などを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。日中は施錠はせず、入居者、それぞれの傾向を把握し、気を配っている。	入居時、皮膚の病でつなぎ服入居者へのケアについて話し合い、入浴回数増やし離床の工夫で着用を止めるなど、日常のケアでの身体拘束による入居者の受ける弊害を理解し、防止に取り組んでいる。外出傾向の強い方には見守り、声がかけて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持っているが、必要性はなく活用した実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、また、必要に応じて説明し理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃、意見や相談など、意見が言いやすい環境を心掛けている。	家族の了解を頂き、利用料や入居者必需品を持参してもらい、都度意見や要望を伺い運営に反映している。入居者が精密検査で仙台まで行かねばならない家族の相談を地元で可能にするなど個々の要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	4月より勤務形態などが変わり新しいスタッフも増えたことにより、様々な意見や提案が出ている。	日々の業務のなかでの気づき、意見を提案ノートに書き、管理者はじめ各職員が赤字で改善意見や対応案を記載し、即、出来ることを実施したり、毎月のユニット会議で話し合っ実施し、サービスの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を尊重し、やりがいや、充実感を持ちながら働くことができるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、日々の勤務時にも、指導や助言などをし、実践することで力をつけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への出席により交流し、悩み事等の相談もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のその時々の状態を察知しながら、寄り添い、耳を傾け、安心できる関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や主任が中心となり家族からの要望や心配事を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、または家族との面会時に見極め、適したサービスを利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように常に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、後楽庵にすることで、安心してもらいながらも、病院の受診などは家族の役割としてお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来訪時には一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。	本人、家族から聞き取った人間関係や地域での関わりの把握に努め、そのつき合いや関わりが続けられるように支援している。教会、自宅など馴染みの場所への外出は本人の意向を家族に伝え、同行をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したり、不快な思いをしないように、一人ひとりの性格や状態、入居者同士の関係性を把握したうえで、必要に応じてスタッフが介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた際には面会などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が今何を求めているのか、必要としているのか本人の立場に立って考えている。	思い、意向把握が難しい入居者には話しかけを工夫し、日々のちょっとした表情、しぐさから本人本位となるよう心掛けている。入居間もない方の居間の座り位置や居室の変更などで満足度を高めるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から伺い、生活背景を把握し、日々の会話の中からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは常に一人一人の現状を把握し連携に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見を反映させながら、本人本位の計画になるように努めている。	気づき、変化を個人日誌に赤字で書き、日々対応すると共に、毎月の各ユニット会議で変化のある方を中心に話し合い、看護師意見も聞き、サービス計画に反映している。定期的には6ヶ月毎に家族と話し合い、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録し、情報の共有をしている。重要な部分にはラインを引くなどの工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所側として、何ができるのか？どこまでできるのか？を考えながら柔軟に対応することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、サークル団体などの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に受診できている。基本受診は家族にお願いし、必要に応じて同行もしている。	希望するかかりつけ医を受診でき、2名の方が協力病院外である。通院は家族同行を基本に、日々の生活状況を伝え、医師助言内容を伺い、受診記録で職員間の共有を図っている。体調により、職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前・午後と一日2回血圧測定と体温測定を実施し、記録している。常に状態観察をし、異常があれば、看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に医療地域連携室があり連携パスシートを利用し情報の交換を図っている。また、電話などのやり取りを随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて随時、話はしているものの、文書化までに至っていない。	前年の外部評価で重度化した場合の対応方針について、協力医療機関や職員間での話し合いの実施をお願いし、目標達成計画にも探り上げて頂いたが、取り組みへの進展が進んでいない。	現状の同居者状況から、重度化に向けて、ホームでできること、できないことを職員間で検討し、早い段階からの家族、医師、職員で話し合いを進め、具体的な対応方針を決め、関係者間での共有化(成文化)をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法について、指導を受ける計画を立てている。救命講習を受けているスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常用の食糧や備品を準備している。町主催の災害対策の情報交換会などにも参加し、協力体制を築いている。耐震補強やスプリンクラーの設置を検討している。	前年は避難訓練を実施していない。4月開設ユニットのスプリンクラーは設置済みであり、既設ユニットへも町補助を前提に、検討中としている。震災経験から非常用品を見直し、口腔ケアセット、コンロ、発電機、食料など準備している。	避難訓練は入居者の命を守り、安全確保に重要であり、地域消防団員の協力も呼掛け、夜間想定を含めた避難訓練の実施、並びに避難通路の砂利道の解消をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活背景や性格を考慮しながら、一人ひとりに合った対応や言葉掛けを心掛けている。トイレに誘う際には周囲に分からないように配慮している。	入居者には同じ目線で、高い声を出さないようトーンやスピードに気をつけながら静かに話しかけるように心掛けている。トイレへの誘いかけは耳元での声がけするなど目立たないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望を引き出せるような言葉掛けや環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事をつくらず、一人ひとりの希望や状態に則したその人らしい暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの方に散髪していただいたり、好みの洋服をきていただくなど、おしゃれや身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは、それぞれの好き嫌いなどを把握し、会話しながら一緒に食事をしている。誕生日には好みの食事を提供するようにしている。	2ユニット開設後から、食材会社を利用した献立で栄養バランスに配慮し、正月、彼岸などの行事食、誕生日食なども取り入れ、楽しむ工夫をしている。入居者と職員が同じ食卓で会話を楽しみ、各人のペースで食事をしてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し、状態に合わせてきざみ食などを提供。摂取量の少ない方には食事時間に拘らずに、こまめに食べられる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯洗浄、口腔ケアスポンジやガーゼなどでの口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入によりパターンを把握している。身体的な負担も考慮に入れながら支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った誘いかけ、二人介助などでトイレでの排泄を支援している。昼、夜の時間帯でのパンツの使い分け、家族の同意を得てのポータブルトイレ使用など、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体的・精神的、また認知症にも影響することを理解し、適切な対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中・夜間と、それぞれの希望や状態に合わせて入浴支援をしている。入浴時間は決めず、突然の入浴希望にも対応できるように心掛けている。	一人ひとりの希望に合った入浴が毎日できるように支援しており、2名での入浴介助や職員2名の勤務体制を20時30分までとしての夜間入浴を可能としている。入浴を拒まれる方にはシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間や就寝時間は決めていない。居間のソファでうたた寝するなど、個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がいつでも確認できる様にファイルしている。誤薬を防ぐためにも個々に薬箱を準備し提供、飲み込んだ事をしっかり確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフとと一緒に懐かしい歌をうたったり、音楽を聴いたりして楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て定期的に自宅に外出するなどしている。	4月開設ユニットでは、自宅へ戻りたいという望みを持たれる近隣入居者がおられるので、現時点、散歩などは落ち着くまで控えており、今後に期待する。自宅訪問、墓参り、馴染みの店での買い物同行は家族にお願いし、理美容はホーム来訪で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族が全て管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力的に困難ではあるが、スタッフが介入しながら支援していきたいと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりのため、音や明るさ、空調には気を配っている。馴染みのものや、季節感のあるものを置くようにしている。	新設ユニットは居室共、強制換気され、臭気や空気のよどみがなく、温・湿管理されている。民家改装既設ユニットでは居間で思い思いに安心して過ごせるようソファなど配置している。両ユニット共、お月見花立、月毎の折り紙ポランティアの飾り、大型曆などで季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの状態や、性格を考慮した上で、全員が落ち着くことのできる居場所を提供するよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのものを持ち込んでもらうように説明している。配置や設えも今までと同じようにしている。	ベッド、小物入れ、鏡など寝具、家具類は全て持ち込みで、本人が使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人、家族と相談して配置し、ホームの暮らしに馴染めるようにしている。職員作成の誕生日祝い色紙や写真も飾られていた	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	築80年以上の建物の良さを活かしつつ、安全を確保できる様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100204		
法人名	特定非営利活動法人ひまわり		
事業所名	グループホーム後楽庵	ユニット名	ゆずりは
所在地	宮城県遠田郡涌谷町字刈萱町14番地		
自己評価作成日	平成23年8月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月に開所の新しいユニットです。平成12年4月に開所のユニットと同敷地内にあり、そこで10年間培って来た経験を活かしながら、後楽庵での生活に馴染んでいただくため、一人一人の入居者に合わせた、その人らしい生活を、試行錯誤しながら見つけている所です。4月の開所以来、毎日のように来訪者があります。入居者にとってはもちろん、家族や友人、近隣住民の方々にとっても居心地の良い場所であるように、スタッフ一同心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 広い敷地内の旧家屋敷を増改築し、10年前に開設した6名の「もみのき」とその運営経験を活かして本年4月開設した9名の「ゆずりは」の2ユニットのホームである。同法人の居宅介護支援事業所が敷地内にあることやボランティア活動から法人を設立した経緯もあり、地域との交流が深く来訪者も多い。今回震災時には飲料水等の差し入れ、建物の応急復旧などの支援を受けており、今後、避難などの災害対策面での地域協力への積極的な働きかけをお願いします。
2. ホーム理念の「私達が年を取った時、暮らしたい場所を自分達の手で作ろう」を実践すべく、若い職員が課題を持って、日々のケアに取り組んでおり、管理者がサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 後楽庵)「ユニット名 ゆずりは 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく場所に掲示し、常に再確認できる様にしている。	ホーム開設時作り上げた理念が日誌を開くと見えるようにして、日々共有、確認し、その実践に努めている。4月の2ユニット目開設を機に、地域とのつながりも深めるような理念の見直しを検討中と話しており、期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、研修の受け入れなどを行っている。	近隣小学校の運動会応援、保育園児との交流、町敬老会参加、文化祭見学など日常的に交流している。今回震災では、燃料、飲料水、野菜などの差し入れ、大工さんの建物応急復旧などの支援を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	涌谷町の取り組みの一環として協力をし、貢献している。(認知症サポーター・認知症の人と家族への支援についての検討会議等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催出来ていない。	地区長2名、民生委員、家族代表、町職員、地域包括支援センター職員をメンバーとし、「目標達成計画」にも掲げていたが、昨年度は開催しておらず、改善をお願いしたい。	その人らしく地域で暮らし続けるには、地域の理解、支援が必要です。メンバーからの意見などをサービス向上に活かしていくためにも、県の指導もあり、定期開催への取り組みをしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	合同学習会や、情報交換会に参加している。また、地域包括支援センターとは、気兼ねなく相談できる関係を築けている。	年2回開催される町健康福祉課主催合同学習会や地域包括支援センター主催グループホーム研修会にほぼ職員全員が参加し、スキルアップに取り組んでいる。地域包括支援センターとは入居相談、随時の助言などを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。日中は施錠はせず、入居者、それぞれの傾向を把握し、気を配っている。	入居時、皮膚の病でつなぎ服入居者へのケアについて話し合い、入浴回数増やし離床の工夫で着用を止めるなど、日常のケアでの身体拘束による入居者の受ける弊害を理解し、防止に取り組んでいる。外出傾向の強い方には見守り、声がけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持っているが、必要性はなく活用した実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、また、必要に応じて説明し理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃、意見や相談など、意見が言いやすい環境を心掛けている。	家族の了解を頂き、利用料や入居者必需品を持参してもらい、都度意見や要望を伺い運営に反映している。入居者が精密検査で仙台まで行かねばならない家族の相談を地元で可能にするなど個々の要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しいユニットで一から築き上げていく部分もあるため、スタッフの意見は貴重であり日頃から提案しやすい雰囲気を中心掛けている。	日々の業務のなかでの気づき、意見を提案ノートに書き、管理者はじめ各職員が赤字で改善意見や対応案を記載し、即、出来ることを実施したり、毎月のユニット会議で話し合っ実施し、サービスの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を尊重し、やりがいや、充実感を持ちながら働くことができるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、日々の勤務時にも、指導や助言などをし、実践することで力をつけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への出席により交流し、悩み事等の相談もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のその時々の状態を察知しながら、寄り添い、耳を傾け、安心できる関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や主任が中心となり家族からの要望や心配事を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、または家族との面会時に見極め、適したサービスを利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に合わせて日常生活での家事などを行ってもらっている。人生の先輩としてスタッフ側が学ぶべき部分もたくさんある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族だからできる事、家族にしかできない事を伝え、入居以前の様な関係性を継続し、より良いものにできるよう、共に考え支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出(教会・自宅・主治医等)をしている。家族や親類、友人などの面会も多く、良い関係を築けている。	本人、家族から聞き取った人間関係や地域での関わりの把握に努め、そのつき合いや関わりが続けられるように支援している。教会、自宅など馴染みの場所への外出は本人の意向を家族に伝え、同行をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極めながら、食事の席や、居室の位置、入浴の時間など試行錯誤しながら、一人ひとりが満足できる様に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、利用が終了した方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向に則した暮らしを提供できるように心掛けており、必ず本人に問いかけ、判断を委ねるように心掛けている。	思い、意向把握が難しい入居者には話しかけを工夫し、日々のちょっとした表情、しぐさから本人本位となるよう心掛けている。入居間もない方の居間の座り位置や居室の変更などで満足度を高めるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から伺い、生活背景を把握し、日々の会話の中からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは常に一人一人の現状を把握し連携に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見を反映させながら、本人本位の計画になるように努めている。	気づき、変化を個人日誌に赤字で書き、日々対応すると共に、毎月の各ユニット会議で変化のある方を中心に話し合い、看護師意見も聞き、サービス計画に反映している。定期的には6ヶ月毎に家族と話し合い、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録し、情報の共有をしている。重要な部分にはラインを引くなどの工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所側として、何ができるのか？どこまでできるのか？を考えながら柔軟に対応することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉機器レンタルの利用や、ボランティア、サークル団体などの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医、医療機関に受診できている。定期的な受診は基本的に家族の役割としてお願いしている。	希望するかかりつけ医を受診でき、2名の方が協力病院外である。通院は家族同行を基本に、日々の生活状況を伝え、医師助言内容を伺い、受診記録で職員間の共有を図っている。体調により、職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前・午後と一日2回血圧測定と体温測定を実施し、記録している。常に状態観察をし、異常があれば、看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に医療地域連携室があり連携パスシートを利用し情報の交換を図っている。また、電話などのやり取りを随時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した場合や終末期のあり方について話し合っていかなければならないと思っている。	前年の外部評価で重度化した場合の対応方針について、協力医療機関や職員間での話し合いの実施をお願いし、目標達成計画にも採り上げて頂いたが、取り組みへの進展が進んでいない。	現状の入居者状況から、重度化に向けて、ホームでできること、できないことを職員間で検討し、早い段階からの家族、医師、職員で話し合いを進め、具体的な対応方針を決め、関係者間での共有化(成文化)をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法について、指導を受ける計画を立てている。救命講習を受けているスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、緊急通報システムを設置している。その他、非常用の食糧や備品を準備している。町主催の災害対策の情報交換会などにも参加し、協力体制を築いている。	前年は避難訓練を実施していない。4月開設ユニットのスプリンクラーは設置済みであり、既設ユニットへも町補助を前提に、検討中としている。震災経験から非常用品を見直し、口腔ケアセット、コンロ、発電機、食料など準備している。	避難訓練は入居者の命を守り、安全確保に重要であり、地域消防団員の協力も呼掛け、夜間想定を含めた避難訓練の実施、並びに避難通路の砂利道の解消をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活背景や性格を考慮しながら、一人ひとりに合った対応や言葉掛けを心掛けている。トイレに誘う際には周囲に分からないように配慮している。	入居者には同じ目線で、高い声を出さないようトーンやスピードに気をつけながら静かに話しかけるように心掛けている。トイレへの誘いかきは耳元での声がけするなど目立たないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望を引き出せるような言葉掛けや環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事をつくらず、一人ひとりの希望や状態に則したその人らしい暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、ひげそりをしたり、好みの洋服を着たりそれぞれが身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは、それぞれの好き嫌いなどを把握し、会話しながら一緒に食事をしている。食後の食器拭きは習慣になっている。	2ユニット目開設後から、食材会社を利用した献立で栄養バランスに配慮し、正月、彼岸などの行事食、誕生日食なども取り入れ、楽しむ工夫をしている。入居者と職員が同じ食卓で会話を楽しみ、各人のペースで食事をしてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分摂取量の記録をし、たんぱく制限食、減塩食、きざみ食などの提供をしている。献立はカロリー計算されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ・電動歯ブラシ・口腔ケアスポンジなど各々に適したものを使用している。夜間は義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により、排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。無理強いすることのないように心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った誘いかけ、二人介助などでトイレでの排泄を支援している。昼、夜の時間帯でのパンツの使い分け、家族の同意を得てのポータブルトイレ使用など、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体的・精神的、また認知症にも影響することを理解し、適切な対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中・夜間と、それぞれの希望や状態に合わせて入浴支援をしている。入浴時間は決めず、突然の入浴希望にも対応できるように心掛けている。	一人ひとりの希望に合った入浴が毎日できるように支援しており、2名での入浴介助や職員2名の勤務体制を20時30分までとしての夜間入浴を可能としている。入浴を拒まれる方にはシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んだり、居間に隣接する和室に横になるなど、好きな場所で休息したり、気分が落ち着けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がいつでも確認できる様にファイルしている。誤薬を防ぐためにも個々に薬箱を準備し提供、飲み込んだ事をしっかり確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かして仕事をお願いしたり、役割を持っていただくなど、生活にメリハリや、やりがいを持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に教会や、お墓参り、選挙などに外出することができている。	4月開設ユニットでは、自宅へ戻りたいという望みを持たれる近隣入居者がおられるので、現時点、散歩などは落ち着くまで控えており、今後に期待する。自宅訪問、墓参り、馴染みの店での買い物同行は家族にお願いし、理美容はホーム来訪で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族が全て管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で好きな時に家族に電話している方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりのため、音や明るさ、空調には気を配っている。馴染みのものや、季節感のあるものを置くようにしている。	新設ユニットは居室共、強制換気され、臭気や空気のよどみがなく、温・湿管理されている。民家改装既設ユニットでは居間で思い思いに安心して過ごせるようソファなど配置している。両ユニット共、お月見花立、月毎の折り紙ポランティアの飾り、大型曆などで季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を見極めながら、入居者全員が落ち着ける居場所を模索中。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に後楽庵での生活に馴染んでいただけのためにも、馴染みのものがあると良いことを伝え、持ち込んでもらっている。	ベッド、小物入れ、鏡など寝具、家具類は全て持ち込みで、本人が使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人、家族と相談して配置し、ホームの暮らしに馴染めるようにしている。職員作成の誕生日祝い色紙や写真も飾られていた	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確保しながら能力を存分に発揮できるような環境づくりを工夫している。		